

東京都日野市 (株)ネイバースファーム 梅村桂 さん

消費者の近くで農業への思いを実現！

都市農地貸借法を活用し全国初の新規就農＋農業経営を法人化



東京都日野市



Point

少量多品目

都市農地貸借法

法人化

Data

経営面積		従業員	
47a うち市街化区域内 47a (生産緑地 47a)		正規雇用2人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地 (37a)] 野菜 約25種類、ブルーベリー			
[施設 (10a)] 野菜 (トマト等)		[その他]	

梅村さんの農地は、京王線高幡不動駅からおよそ500mの市街化区域に位置し、戸建て住宅やアパートが密集する住宅地の中にある。

取組の特徴を教えてください

- ◆環境制御型の施設（ハウス）でトマトの養液栽培に取り組んでいます。施設の面積は7aと規模は小さいですが、徹底した環境管理により、年間1万kg以上の収穫ができており、1千万円以上の売上を達成しました。
- ◆トマトの他にも季節野菜やブルーベリーの栽培にも取り組んでおり、庭先にある無人販売所、JAの直売所、都心部の量販店、ECサイト等で販売しています。
- ◆また、割れたトマトを使用したトマトジャム、余剰収穫を使用したブルーベリージャムの加工品販売にも取り組み、農園の野菜・果物をあますことなく活用しています。
- ◆さらに、「ファームカミングデー」と銘打ち、農園を開放し、近隣の方々が自由に訪れられるイベントを開催しています。収穫体験や試食会を実施し、食べて楽しむだけでなく、農園の場としての価値を感じていただくことで、近隣の方に都市農業の魅力を知っていただきました。



都市部での就農のきっかけを教えてください

- ◆大学在学中に海外の発展途上国の農村地帯を回るうちに、「人間の本质である農業」に魅力を感じようになり、一生の仕事にしようと決心しました。
- ◆大学3年からはさまざまな農家を回り、卒業後農業法人に就職し、トマトの生産に携わっていましたが、やはり自分の農業をやりたいと、独立を決意しました。
- ◆父の故郷である日野市周辺での就農を目指しましたが、トマト栽培に必要なハウスの設置が可能な農地の確保に苦慮しました。
- ◆このような中、東京都農業会議と日野市が連携し、市内の農地所有者に意向を確認していただき、希望に沿う農地の貸借を実現していただきました。

工夫していることがあれば教えてください

- ◆持続的な都市農業を実現するため、GAP（農業生産工程管理）に取り組んでいます。
- ◆ハウス内は土足厳禁にする等のルールづくりや農機具の整理整頓、生産から収穫までの工程の見える化をすることで、農産物の安全性のみならず、労働の安全性や環境への配慮に取り組んでいます。
- ◆特に効率的かつ環境への負荷が少ない農業に力を入れており、排出する二酸化炭素の一部を再利用するなど、カーボンニュートラルに貢献しています。また、収穫後のトマトの茎は、チップ化しブルーベリーの畑に農業資材として活用するなど、廃棄の削減・資源循環にも取り組んでいます。
- ◆また、生産者の考えや現場を消費者に知ってもらうために、地域事業者や市内のトマト農家と連携しトマトをテーマにした「ひのトマトフェス」を開催しました。
- ◆フェスではトマトの食べ比べなどの体験イベント、トマトビールの商品企画・開発を行い、日野市のトマトの魅力を発信するとともに、農業者やマルシェのボランティアと飲食事業者とのつながりを創出し、新たな取引の促進にもつながりました。



写真：studio Gift 今泉

今後の展望を教えてください

- ◆継続的な農業経営、従業員の福利厚生、そして、農業を組織としての職業としたいという思いがあり、2人目の正規雇用を機に、就農から5年目に法人化をしました。また、新たに近隣の農地を借りることができ、規模拡大とともに、長期で安定して働ける職場にしたいです。
- ◆開園当初からの思いである「近隣の人、地域の方と繋がりながら魅力的な街づくり」のために様々な経営展開にチャレンジしたいです。「日野市といえば、トマト！」と多くの方に評されるよう、近隣の方々や農業者、飲食事業者と一緒に地域を盛り上げていきたいです。

東京都清瀬市

横山園芸 横山直樹さん

日常に花のある文化・価値を拡げたい！

オリジナルの個性を武器に多くのファンを獲得



東京都清瀬市



Point

花き生産

環境負荷低減

情報発信

Data

経営面積

33a
うち市街化区域内 33a
(生産緑地 33a)

従業員

常時雇用 2 人
パート 8 人

売上高

～1000万

1000万～3000万

3000万～

栽培別内訳

[露地 (5a)]

[その他]

[施設 (33a)] クリスマスローズ、ダイヤモンドリリー、
原種シクラメン、アネモネ、エディブルフラワー他

横山園芸は、西武池袋線清瀬駅からおよそ3kmの市街化区域に位置し、周辺の道路沿いにはアパートや戸建て住宅が立ち並び、後方には大区画農地が残る地域にある。

取組の特徴を教えてください

◆クリスマスローズ、ダイヤモンドリリー、原種シクラメン、アネモネ、エディブルフラワーを中心に年間を通じて花き生産を行っています。同時に複数の品種を生産することで、リスク分散や安定的な経営を図っています。また、農業所得が9割以上を占めていることも特徴です。

◆生産量や規格が市場に当てはまらないことも多いため、鑑賞用の花のほとんどを園芸店等の小売店に、エディブルフラワーは高級レストランを中心とした都内の飲食店に直接出荷しています。そのほかには、コロナ禍に開設したオンラインショップも着実に数字を伸ばしています。

◆常に時代の先を見据えるように意識して新しい品種の開発を行っており、それが生きがいにつながっています。

◆「花が好き」である気持ちを軸に、独自の商品開発と販売方法を強みに経営を行っています。SNSなどの発信で共感して頂くことで、多くの方に支持され、喜んでいただいていると思います。



取組のきっかけを教えてください

◆代々野菜農家でしたが、父が花が好きであったこと、小さい面積で収入を上げることを目標に花き生産を始めました。1970年代のオイルショックの影響により、冬場に暖房を必要としない「クリスマスローズ」などの、丈夫な植物に目を付けました。



◆自身は高校卒業までは家業を継ぐことは考えていませんでしたが、イギリスでの2年間の研修を得て、園芸が文化として根付いている姿に、生産者になることへの見方ががらりと変わりました。現在は、生産者であると同時に育種家として生活にお花のある文化を広める活動を行っています。

取組の成功の秘訣を教えてください

◆2020年東京オリンピックに向けて、世界の人をもてなすため、エディブルフラワーの生産を始めました。味わいや鮮度、日持ちの長さを意識して生産しています。洗わずにそのまま安心して食べられるよう、限りなく無農薬でオーガニック栽培を実践し、苦味、えぐみを取り除くために化学肥料や動物性堆肥は使用せず、有機性の肥料でじっくり育てています。

◆出荷する際には、切り花のミニブーケのような花束をつくり、生き生きとした鮮度を保持するため、茎を長めに残し、切り口を水を吸わせたスポンジでくるんで配送しています。

◆横山園芸のファンを作ること、生活にお花がある文化・価値を広げることがモットーに、YOUTUBEやSNSでの発信、講演会、雑誌への寄稿等、幅広いチャンネルで積極的に情報発信を行っています。

◆等身大の姿を発信するように意識しており、発信方法や話し方の研究を重ね、花の魅力を伝える代弁者になれるよう活動を続けています。



今後の展望を教えてください

◆現状の規模を維持しながら、自分のペースで楽しく経営を続けていきたいと考えています。

◆また、地域貢献の一環として農場を総合防災施設とし、災害時には一時避難場所として地域の方に利用してもらいたいと考えています。すでに東京都の補助金を活用し、発電機や井戸を設置しました。